

2024/4/22 (月)

朝の礼拝

聖書 サムエル記 3章 6-10節 (旧約聖書416頁)

主は再びサムエルを呼ばれた。サムエルは起きてエリのもとに行き、「お呼びになったので参りました」と言った。エリは、「私は呼んではない。わが子よ、戻って休みなさい」と言った。サムエルはまだ主を知らず、主の言葉はまだ彼に示されていなかった。主は三度サムエルを呼ばれた。サムエルは起きてエリのもとに行き、「お呼びになったので参りました」と言った。エリは、少年を呼ばれたのは主であると悟り、サムエルに言った。「戻って休みなさい。もしまた呼びかけられたら、『主よ、お話してください。僕は聞いております』と言いなさい。」サムエルは戻って、元の場所で寝た。

主が来られ、そばに立って、これまでと同じように呼ばれた。「サムエル、サムエル。」サムエルは答えた。「お話してください。僕は聞いております。」

夢の中で

聖書では、神様が誰かを選び、呼びかけ、神様の約束を示される時は夜、それも夢の中が多いです。いま読んでいただいた幼いサムエルも夢の中で、神様から三度も呼ばれます。しかしサムエルはエリという先生に呼ばれたのだと勘違いします。

先生は「もし三度目に呼ばれたら、『主よ、お話ください。僕は聞いております』と言いなさい」と幼いサムエルに諭します。すると神様は三度「サムエル、サムエル」と呼ばれました。そして先生から言われた通りに、夢の中で答えるのでした。

神様が夢の中でサムエルの名を三度呼んだのは「サムエル、あなたが眠り、あなたがひとりになっても、わたしはあなたの名を呼び続ける。夜の、闇の中でも一緒にいる」という徴（しるし）ではないでしょうか。

わたしたちは起きている時だけでなく、寝ている時も呼吸をします。それと同じように夜、闇の中でこそ、あなたのそばにいるよ、あなたを決して忘れていないよと、神様は夢の中で、わたしたちの心に呼びかけているのではないのでしょうか。

（しばらく黙祷しましょう）

慈しみ深い主よ、あなたは夢の中でサムエルに呼びかけ、あなたが共にいると知りました。どうか眠りにある時にも共にいて、わたしたちにすべきことを示し導いてください。先週の英和生の台湾地震救済キャンペーンを祝福し、これからも遠くの隣人にも心を寄せ、あなたと共に歩ませてください。今日一日もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン